

この拙稿は、参院選挙の投票日に書いている。だから、今度の選挙でのエピソードを一つ。

ボクの知人の障害者は、先日、20年以上も前入院していた病院で、同部屋だった同年代の障害者から、突然の電話を貰った。知人は名前も顔も忘れていたそうだが、話すうちに記憶が戻り、互いに懐かしがったそうだ。ところが、電話の最後に、「ところで、今度の参院選挙で〇〇候補をお願いしたいんだけど…」となって、この知人、しばし言葉が出なかったそうだ。嬉しい電話だっただけに、どんでん返しのような後味の悪さをボクに語ってくれた。また、別の知人は、姉のつれあいが半年ほど前急死した。先日、姉のところへ、一時期、故人の会社の上司だったことのある人のつれあいさんから、慰めの電話をいただいた。遠方からで、顔も知らない人なので戸惑ったが、丁寧に御礼を述べたら、「ところで、今度の参院選挙…」となったそうだ。姉は、「いくらなんでも…」と言って、次の言葉が出なかったそうだ。

いわゆるF作戦と言って、創価学会の人が学会員ではない人に選挙を依頼し票を拡大することを、「フレンド」の頭文字をとってそう名づけていると、学会員さんから聞いた。まことに



F作戦に異常あり

羨ましいほどの組織力で頭が下がる。しかし、この二つの事例は、いかにも度が過ぎている。ボクは、創価学会の知人も多し、シンパシーを感じる公明党の議員もいる。みんな真面目でいい人だし、何より、議員は福祉に熱心だ。その昔、大阪市会でドンと言われたある公明党の市議と酒を酌み交わしたことがある。「辛い人生を生きてきた学会員に、せめて信仰だけは心おきなくやらせたい、その一心で選挙に出た」と聞いて、感動したこともある。

だから、今度敢えてはっきり言うことにした。創価学会が庶民感情を押し重ねなくてどうするの。F作戦とかの物言いに違和感持たなくてどうするの、と。

でも、ひよっとするとボク達も、同じ類の失礼をやっていたかもしれない。今度の選挙、創価学会だけでなく、組織が一生懸命に頑張った、それは間違いではないけど、政策上の争点をつくれな分、お願いの連呼になって、副作用も出た。公明党だけのせいではない。来年は、統一地方選挙に大阪市長選挙、そして知事選挙と続く。今度は政策だけで競いたい、ほんとにそうしたい。公明党さんにも、そう願いたい。もうすぐ8時、さて、結果は…。

(株)ナイス代表取締役 富田一幸



hidarimakiの
この逸編

若者のすべて



監督：ルキノ・ヴィスコンティ
音楽：ニーノ・ロータ
キャスト：アラン・ドロ
 アニー・ジラルド
 クワテリ・カサット
 レオ・カサット
製作：1960年
 伊・仏作品
 モノクロ 177min
DVD発売：(株)東北新社

職を求めてイタリア南部の貧村を棄て、大都市ミラノにたどり着く6人の家族。仮の住まいを得たあくる朝、雪が舞い降りる。このシーンに寄り添いながら流れる曲が、ニーノ・ロータ作曲の「遥かな国」だった。僕の少年時代、ラジオから流れるこの曲が欲しくて、ビクターから発売されていたサントラ盤のレコードを買った。このレコードは今も大切にしている。成人し、やっとこの映画を見ることができたが、音楽とこのシーンには震えるほど感動し、今なお口ずさむぐらいに大好きな逸曲であり逸編だ。

この映画は、ドロロン扮するロッコを中心に、シモーネ、チーロら5兄弟と、薄幸の女ナディアが絡むエピソードで構成されている。兄弟たちは、日雇い仕事で日暮し生活をしながら、しかしシモーネとロッコはボクシングの素質を見出されていく。チャンピオンになったシモーネに、愛のないただれた関係続けるナディア。学びながら自動車工場に就職し母を助けるチーロ。兵

役のため部隊に入営するロッコ。

ロッコは常に生まれ故郷に思いをはせ、しかし生活を優先しなければならない気持ちを持ちつつ、貧しさと孤独さで自暴自棄に生きるナディアを認め愛し合うようになる。ナディアに去られたシモーネはますます荒れ狂い、復讐心の結果ナディアをロッコの目の前で陵辱してしまう。悲しい兄弟のすさまじい暴力が描かれ、徐々に家族や兄弟のほころびが見え始めてくる。そしてロッコがチャンピオンとなった夜、優勝記念に家族や近隣の客たちが集まり、シモーネのいない賑やかなパーティーが始まる。苦勞の末、貧しいまま死んでいった夫、思い出の村、故郷を棄ててきた自分たち家族を語る母。このシーンは「鉄道員」(なび4月号参照)の終章によく似た家族をいとおしむ光景だった。

そこでロッコは故郷に帰る決心を告げる。自分たちを育んだ貧しい村を夢見て。そんな佳境の中、シモーネが帰宅しナディアを殺してきたことを告白する。チーロが家を飛び出し、家族の慟哭(どうこく)が最高潮に達する。すべては都会に出てきて変わってしまった。自分たちの居場所をついに探しえなかった後悔と無念さを味わうのだ。

映画では、それぞれが孤立し、相互に傷つけあう若者群像の日常風景を描いて悲しい。貧しい環境のなか、純粋なロッコと野卑なシモーネ、貧乏と退廃の象徴としてのナディアらの対比が鮮やかだ。ヴィスコンティの演出が今も新しい。スターダム直前のアラン・ドロンの初々しさと神々しさに感服し、妖艶で退廃的なナディアを演じたアニー・ジラルドの美しさに興奮しきりの逸編だった。

hidarimaki

